

水都大阪ビジョン2030 【アクションプラン】

(案)

2026年2月
水都大阪コンソーシアム



1. アクションプランの考え方

2. アクション

(1) 水都大阪ならではのブランディング・魅力発信

(2) 舟運の活性化と水辺エリアの魅力向上

(3) 水辺の安全と環境を守る取組みの推進

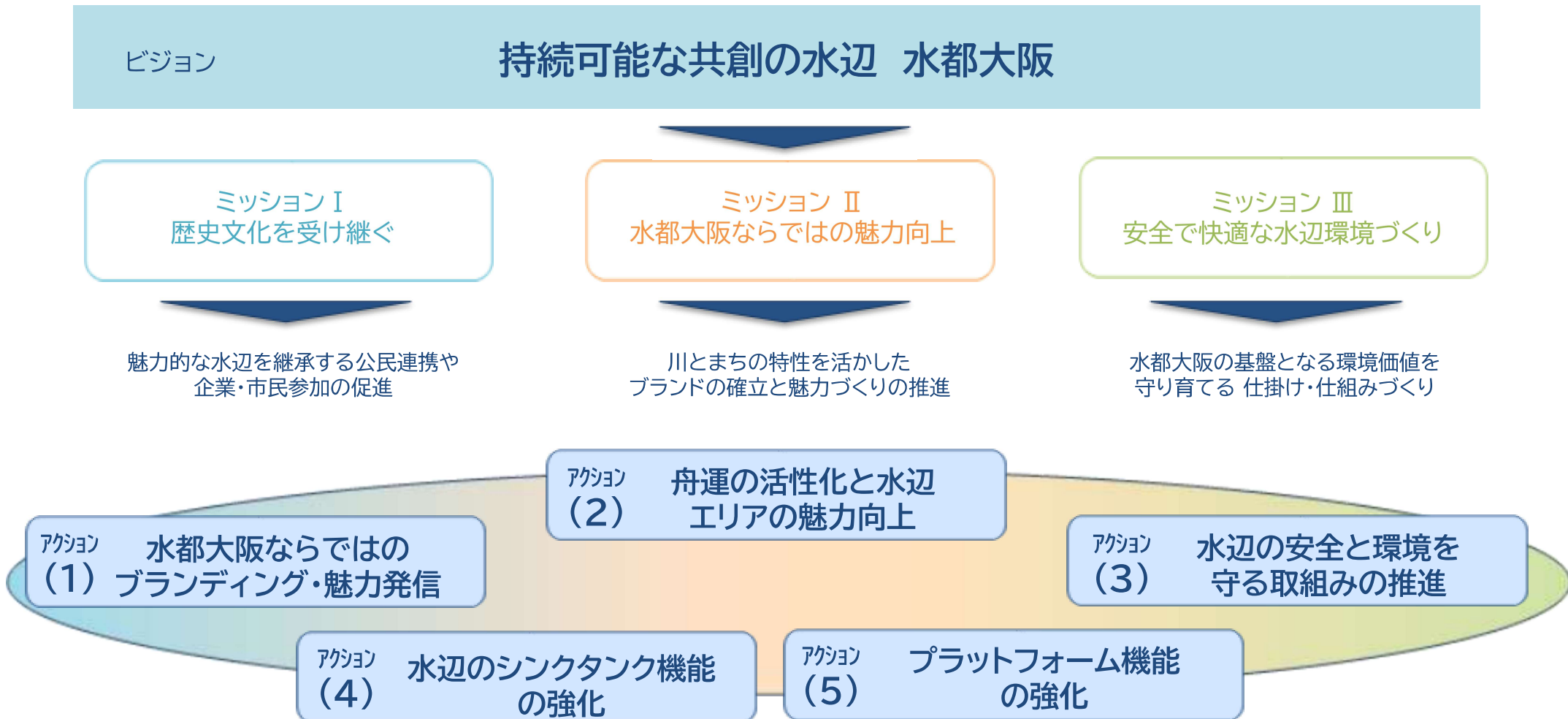
(4) 水辺のシンクタンク機能の強化

(5) プラットフォーム機能の強化

3. アクション一覧

1. アクションプランの考え方

- 本アクションプランは、2026年度から2030年度までの5年間について、水都大阪コンソーシアム(以下SOC)の事業を中心とした取組みの方針を示すものである。
- ミッションⅠ～Ⅲの方向性を受けて構成する(1)～(5)のアクションを実施することで、ビジョンの実現を目指す。アクション(1)～(3)はSOCが他の主体と連携しながら実施。アクション(4)(5)はSOC自体の機能強化の取組みである。



2. アクション(1) 水都大阪ならではのブランディング・魅力発信



■成果

- 多様なメディアを活用した主体的な情報発信 (SNS,HP運営)
- 外部メディアへのアプローチによる情報発信連携



多言語対応したクルーズマップや船着場案内幕

- 訪日・在日外国人向けメディアの活用



海外メディア向けナイトクルーズ

■課題

- 水都大阪の一体的な情報発信や統一感
- 「水都大阪」としてのブランド強化、国内外での認知度向上

・:継続 ○:拡充 ◎:新規

①水都大阪ならではのブランディング

水の回廊と重点エリアを中心に、「水都といえば大阪」を想起させる水辺のブランディングを行う。

- ◎水都大阪全体の世界におけるポジショニングやエリア特性の把握
- ◎水都大阪全体のブランド戦略検討と定期的なブランド力調査の実施
- 重点エリアを中心に関係主体と連携してエリアごとのイメージを検討

②世界における水都大阪の認知度向上

大阪の個性として水都を打ち出し、国内外の水都との連携を広げる。

- ・海外に向けた情報の編集・発信
- ・国内外の視察対応
- ◎水都国際会議(仮称)等の実施・参画
- ◎水都関連のMICEの誘致



国際会議への参加 (ウオーターソウル2021)

③多様な魅力の再編集と発信

国内外へ向けた情報発信を継続するとともに、市民にとっても訪れる人にとっても分かりやすい水都大阪を目指す。

- ・水都大阪の魅力を再編集・発信(歴史文化・環境など)
- ◎船着場・水辺への誘導強化(船着場案内幕の更新、鉄道等との連携、ライトアップ等)



【参考】Fieldwork Facility (ロンドン・デザイン会社) 結束バンドのようなもので固定された、駅から新開発エリアまでの案内表示

「水都」といえば大阪が想起されることが国内外に浸透している

■アウトカム指標(イメージ)

※2026年度に検討・設定

- 大阪が水都だと思う市民・国内外の旅行者の割合
- 水辺で過ごす人の数(昼・夜)
- ブランド力調査における目標数値のクリアなど

2. アクション(2) 舟運の活性化と水辺エリアの魅力向上

～2025
成果と課題

2026～2030
取組方針

目指す状態

■成果

- 民間による水辺拠点増加
(2021年以降4か所)



β本町橋

- 水上花火クルーズなど
新たな旅行商品を造成
- 冬の閑散期に水辺の
ライトアップを実施
(大阪・光の饗宴と連携)



中之島・土佐堀川
沿いライトアップ

■課題

- 水都大阪全体の回遊性
向上(船・歩ける水辺)
- 乗船チケット購入などの
デジタル化

・:継続 ○:拡充 ◎:新規

①水都大阪ならではの舟運の取組み

水と光のシンボルである中之島・水の回廊で、新たなナイトクルーズの創出など舟運のさらなる活性化に向けた取組みを行う。

- ナイトクルーズなど舟運の活性化に向けた取組み
- 新たな観光商品造成の促進

②舟運や水辺を活用した回遊性の向上<連携事業>

重点エリアを中心に、多様な主体の取組みと連動を図る。

- ・淀川・ベイエリアとの連携
- ・水辺の遊歩道整備等の事業との連携
- ・乗船チケット購入などのデジタル化に向けた継続的な検討

③ブランド強化に向けたエリアのにぎわいづくり

重点エリアを中心とした水の回廊において、水都大阪のブランド強化を目指し、段階的ににぎわいづくりを展開する。

- 川・エリアごとの特性を活かした連携によるにぎわいづくり
- ◎ブランド戦略と連携した取組みの実施
- ◎水の回廊における回遊型のにぎわいづくり
(例:船着場を中心とした水都大阪フィールドミュージアム)



八軒家浜会場と
中之島会場を結ぶ
拠点間クルーズ
(2024年)



【参考】丹波地域恐竜化石
フィールドミュージアム
エリア全体を博物館と捉え、
モデルコースも設定。
(出典:丹波地域恐竜化石
フィールドミュージアム
推進協議会)

水辺の拠点とその周辺
エリア、水辺の拠点同士
の連携が強化され、水都
大阪の魅力を巡る回遊性
が向上している

■アウトカム指標(イメージ)

※2026年度に検討・設定

- ・水辺の拠点間をつなぐ
舟運の航路数
- ・エリアにおけるイベント
の数と参加人数
- ・回遊型イベントへの参加
人数と満足度

など

2. アクション(2) (参考)重点エリアの現状と進行中の開発

【西の結節点】

水都大阪の海への玄関口として
歴史的な価値が集積するエリア
(中之島西部・中之島GATE・川口・江之子島)



【東の結節点】

緑豊かな水辺が歴史文化と
イノベーションをつなぐエリア
(中之島東部・天満橋・東横堀川北部・大阪城東部)



【現状と進行中の開発】

- 大阪港発祥の地や川口居留地など、かつて水都大阪の玄関口として栄えた歴史的なエリア
- なにわ筋線の開設や夢洲への航路開拓など広域のアクセス向上のポテンシャルが高い
- リーガロイヤルホテルや大阪国際会議場などグローバルコミュニケーションゾーンをコンセプトに中之島五丁目地区の再開発が進行中
- 水辺のライトアップや歩行者空間の整備が進んでいるものの連続性に課題

【現状と進行中の開発】

- 八軒家浜船着場、大阪城港、本町橋船着場など船着場が多数あり、舟運活用のポテンシャルが高い
- 大阪城公園をはじめとした緑と、中央公会堂・造幣博物館等近代建築を活用した文化施設が水辺に多数存在している
- 森之宮や京橋などイノベーション拠点を含むエリア開発が進行中
- 天満橋周辺でホテルやタワーマンションの建設が進行中
- 水辺のライトアップの更新が予定されている
- 東横堀川では公民連携組織の設立や未来ビジョン策定に向けた取り組みが進行中

※水と光のまちづくり構想整備マップ（2011年8月発行）をベースに作成

※開発計画エリアについては2025年8月時点の情報のもと作成

2. アクション(3) 水辺の安全と環境を守る取組みの推進



～2025
成果と課題

2026～2030
取組方針

目指す状態

■成果

- OSAKAごみゼロプロジェクトや水上の清掃ツアーなど、水辺の環境美化活動の実施
- 全国初の自主的な船の航行ルールの策定・更新
- 舟運事業者への安全と賑わいの両立に向けた啓発



水上航行ルールリーフレット(R7)

水素燃料電池船
まほろば
(出典:2025年日本国際博覧会協会HP)



■課題

- 人気が集中するエリア・シーズンへのレスポンスブルーツーリズム視点からの検討
- 舟運の安全強化
- 電気船、ゼロエミッション船への移行・環境整備

・:継続 ○:拡充 ◎:新規

①水辺環境活動への企業・市民の参加促進<連携事業>

水都大阪の環境についての知識を広げ、持続可能な水環境を実現するための取組みへの市民や企業の積極的な参加を目指す。

- 水辺の環境活動への企業・市民参加の促進
(ごみ削減に向けた取組み、船舶のゼロエミッション化、市民参加環境プログラム実施等)
- 学校連携による環境学習の実施
- ・大阪ブルー・オーシャン・ビジョンとの連携



大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画
(出典:R3年 大阪府・大阪市)



水上のごみを拾うプログラム
(出典:日本シティサップ協会)

②船・水辺の安全・安心の普及振興<連携事業>

船が安全に航行し、安心して歩ける水辺を目指す。

- ・河川の安全と振興の協議会での情報共有
- ・安全な舟運を維持するための活動
- 関係機関と連携した、水辺の見守りを強化する取組み

水辺の環境や船の安全への意識が高まり、水辺の快適性が向上している

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- ・水辺の環境活動に参加する市民・企業の数
- ・夜でも安心して水辺で過ごせると感じる市民の数
- ・大阪ブルー・オーシャン・ビジョンにかかる調査における市民満足度
- ・水安協における舟運インシデント件数など

2. アクション(4) 水辺のシンクタンク機能の強化



■成果

- 舟運利用者数や船舶数、情報など水辺にまつわるデータの蓄積



水都大阪の船が一覧できる船のカタログ

■課題

- 水都大阪の基礎となる様々な情報や既存データの体系的な整理と発信不足
- 取組みの成果を評価する指標がない

・:継続 ○:拡充 ◎:新規

①公民連携ならではの調査・研究・アーカイブ

データを活用した新規事業や新しい取組みの創出、ファンづくりや提言にもつなげることを目指す。

- 水都大阪にまつわるデータを整理し、わかりやすく一般に公開
- ◎大阪府・市・経済産業省等の統計データなど関連データの収集・分析



Stroylによる水都大阪まちあるきマップ



水都大阪説明用パネル

②評価軸の設定

公民連携で水都大阪の現状を把握しながら、将来における水都大阪のあるべき姿を検討し、進むべき方向性やアウトカム指標を明らかにする。

- 水都大阪の取組みの方向性を定め、進捗を測るための評価軸の検討
- 評価軸づくり・年度ごとの事業レビューにおける専門家との連携

水都大阪に関わる情報が整備されることで、水都大阪の状況が広く共有され、関係者の理解が深まっている

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- アーカイブデータの引用件数 など

2. アクション(5) プラットフォーム機能の強化



■成果

- 新しい交流の場や参加のきっかけづくり
(水辺を語る会、水都大阪の教科書お披露目会、水都大阪かるた大会の実施)
- 月2回メルマガを配信
(約800名(2025年11月末))
- 水都大阪の魅力を次世代へ発信・啓発
(水都大阪アカデミア:参画大学ゼミ数12(2025年11月末) / さくらクルーズ無料招待小学生:3,101人(2024年度総数))

■課題

- これまでの公民連携の取組みや活動に関わるノウハウの継承
- 水都大阪での活動や事業に関する相談窓口の拡充

①水辺の事業・活動の共創

舟運事業者、水辺拠点事業者、新しいエリア主体、行政等が情報を共有し、水辺の活動促進を目指す。

- ・関係者との連携による情報プラットフォームの構築
- ◎効果的な共創の場づくりの検討
- ◎エリアが主体となった水辺の活動の支援

・:継続 ○:拡充 ◎:新規



舟運や水辺関係者の意見交換会
(水辺を語る会)



市民が参加する橋洗い

②水都大阪のファンづくり

子どもや学生、働く人などを対象に、水都大阪の成り立ちや水辺の楽しみ方を伝えることでファンを増やし、水辺に携わる人の裾野を広げる。

- ・多様な対象に向けた水都大阪の魅力発信
(大川さくらクルーズ、水都大阪かるた大会、水都大阪の教科書 等)
- ・学校や他地域との連携(水都大阪アカデミア)



水都大阪かるた / 大川さくらクルーズ

③水都大阪にまつわる相談窓口機能の拡充

相談窓口を通して新しい水辺の活用を促進するため、関係先・担当者へスムーズにつなげ、民間活動を促進する。

- 水都大阪での活動や事業に関する水辺の利活用の相談対応
- 適切な事業者・行政・仕組みへの横つなぎ

水都大阪に関わる活動が多様化し、次世代のプレイヤーが活躍している

■アウトカム指標(イメージ)
※2026年度に検討・設定

- ・水辺での活動団体・プレイヤーの数
- ・複数分野の連携によって生まれたプログラム数
- ・国内外の会議や視察対応の満足度
など

3. アクション一覧

アクション	事業項目	主な役割分担	
		SOC	関連組織
(1) 水都大阪ならではのブランディング・魅力発信	① 水都大阪ならではのブランディング	○	
	② 世界における水都大阪の認知度向上	○	
	③ 多様な魅力の再編集と発信	○	
(2) 舟運の活性化と水辺エリアの魅力向上	① 水都大阪ならではの舟運の取組み	○	
	② 舟運や水辺を活用した回遊性の向上	○	↔ 連携
	③ ブランド強化に向けたエリアのにぎわいづくり	○	
(3) 水辺の安全と環境を守る取組みの推進	① 水辺環境活動への企業・市民の参加促進	○	↔ 連携
	② 船・水辺の安全・安心の普及振興	○	↔ 連携
(4) 水辺のシンクタンク機能の強化	① 公民連携ならではの調査・研究・アーカイブ	○	
	② 評価軸の設定	○	
(5) プラットフォーム機能の強化	① 水辺の事業・活動の共創	○	
	② 水都大阪のファンづくり	○	
	③ 水都大阪にまつわる相談窓口機能の拡充	○	

水都大阪ビジョン2030

【資料編】

(案)

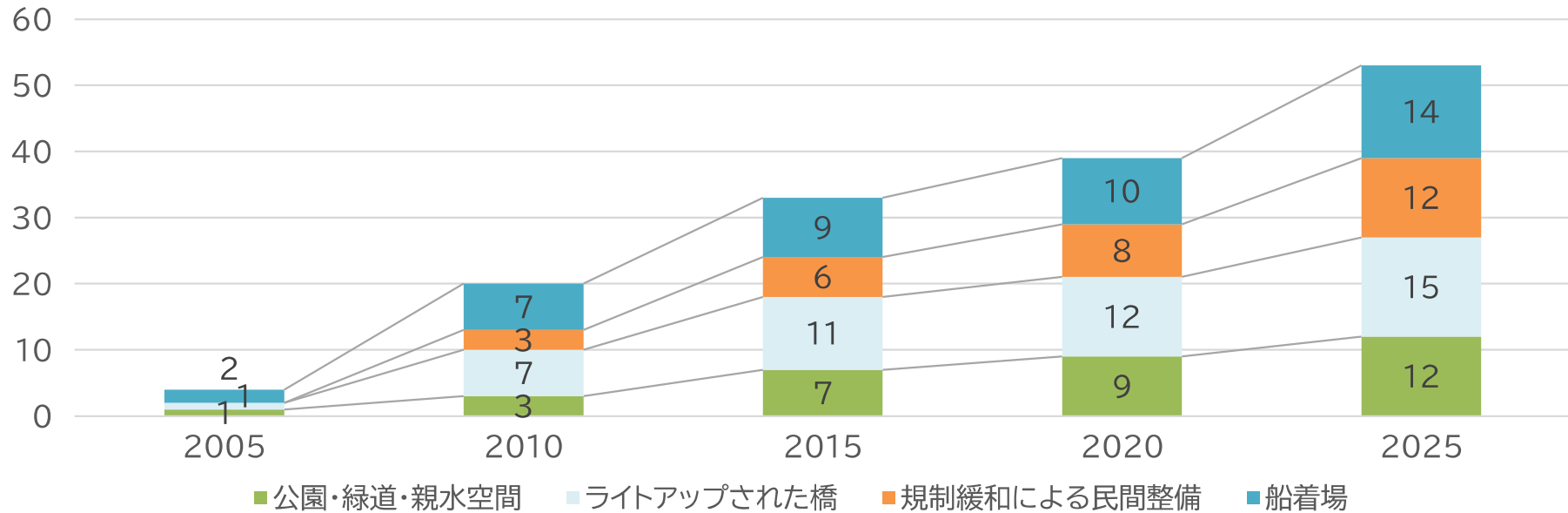
2026年2月
水都大阪コンソーシアム



1. 水都大阪再生の振り返り
2. 船着場の整備状況
3. 準則特区指定状況
4. 水都大阪関連施設の整備状況と経年変化
5. 水辺の親水空間整備状況
6. 近年のインバウンドの推移
7. 来阪インバウンドの訪れる場所
8. 舟運利用者数の推移
9. 船着場利用実績の推移
10. 観光船の航路
11. 舟運の安全の状況と対応
12. 万博を契機とした主な取組み
13. 世界の水の都の再生

1. 水都大阪再生の振り返り ③水辺の施設の推移

- 2001年に都市再生プロジェクトに採択されてから、水都大阪2009や水都大阪2015、2025年の大阪・関西万博などを契機として、船着場や水辺の民間拠点、公園・緑道・親水空間など公民による水辺のハード整備が進められてきた。



中之島公園バラ園



堂島川・ガーデンブリッジ



β本町橋



八軒家浜船着場

3. 準則特区指定状況①

- 2016年5月、河川敷地占用許可準則が改正され、営業活動を行う事業者等が河川敷地を占有する場合の占有許可期間の上限が「3年」から、公的主体の場合と同じ「10年」に延長された。
※占有期間は占有の様態等を考慮して適切な期間を設定することとされている。

(2025年12月時点)

指定年月日	指定区域	主な施設等
2011.7.15	八軒家浜： 大川左岸の天満橋～天神橋下流120m	川の駅はちけんや
2012.3.26	北浜： 土佐堀川左岸の難波橋上流320m～淀屋橋	北浜テラス（15件）
2012.3.26	中之島東部： 天神橋上流（剣先）～淀屋橋・鉾流橋	中之島公園 R/GARB
2012.3.26	中之島バンクス： 堂島川左岸の玉江橋～堂島大橋	中之島バンクス（カフェ、バー、物販、水上レストラン等）
2012.4.1	道頓堀川： 湊町（浮庭橋）～日本橋	とんぼりリバーウォーク
2012.7.19	若松浜： 堂島川右岸の鉾流橋～水晶橋	中之島LOVE CENTRAL
2015.2.23	尻無川河川広場： 尻無川左岸の岩崎橋～岩松橋	TUGBOAT_TAISHO
2016.2.19	安治川右岸（船津橋下流）：安治川右岸船津橋～下流330m	おおさかふくしま・中之島ゲート海の駅
2021.6.1	東横堀川：本町橋北側水域、本町橋3番・4番	β本町橋
2022.3.7	安治川右岸：桜島入堀上流～1080m	広場・イベント施設、船着場等
2023.11.8	安治川左岸（船津橋下流）	中之島GATEサウスピア
2024.3.29	淀川右岸：淀川河川敷十三エリア	広場・イベント施設、船着場等

※その他、箕面川(箕面市)、狭山池ダム(大阪狭山市)、内川(堺市)がある。

3. 準則特区指定状況②

- 2011年から14年間で、12ヶ所の水辺の拠点整備が行われた。

before



after



【TUGBOAT_TAISHO】



【β本町橋】



【中之島GATEサウスピア】

※写真は整備が完了した主なエリア

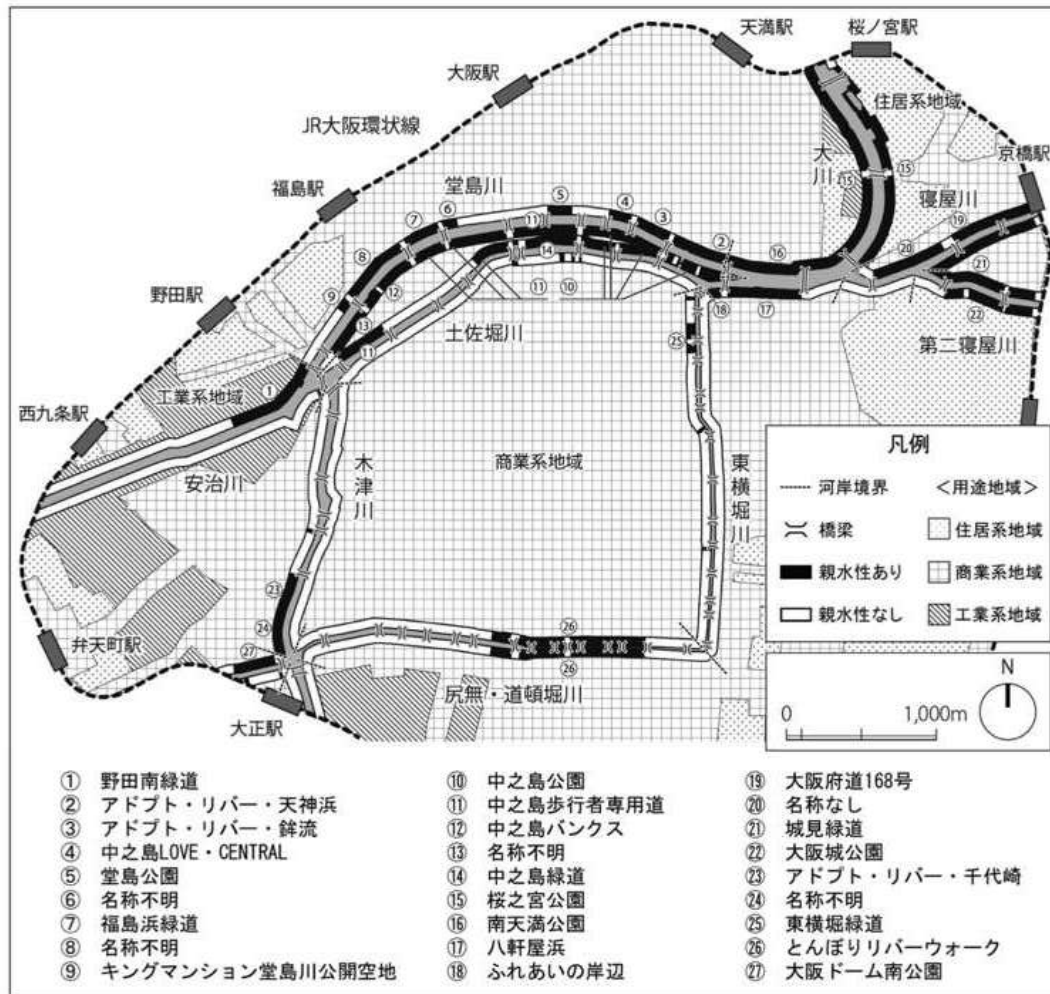
4. 水都大阪関連施設の整備状況と経年変化

- 2001年の都市再生プロジェクト採択以降、河川区域内に水都大阪関連施設が多数整備されてきた。整備から20年を経過するものも出てきており、更新の対応が必要な時期に来ている。(2025年12月時点)

種別	名称	区間	管理	経過年数	整備年	
特区賑わい施設	川の駅はちけんや	天神橋～天満橋	民間・府	15	2009	
	GARB・R	天神橋上流～淀屋橋・銚流橋	民間	15	2009	
	北浜テラス	土佐堀川左岸	民間	15	2009	
	国際会議場前中之島バンクス	堂島大橋～玉江橋	民間・府	13	2011	
	若松浜「ラブセントラル」	水晶橋～銚流橋	民間・府	10	2013	
	おおさかふくしま・中之島ゲート海の駅	船津橋下流	民間	7	2017	
	タグポート大正	岩崎橋～岩松橋	民間	4	2020	
	β本町橋	本町橋北側	民間	3	2021	
	遊歩道	とんぼりリバーウォーク	湊町	市	23	2001
とんぼりリバーウォーク		戎橋～太左衛門橋	市	20	2004	
八軒家浜		天神橋～天満橋	府	16	2008	
国際会議場前護岸		堂島大橋～玉江橋	府	13	2011	
(名称不明)		難波橋～天神橋	府	12	2012	
とんぼりリバーウォーク		太左衛門橋～日本橋	市	12	2009	
天満天神の森		銚流橋～難波橋	府	9	2015	
トコトコダンダン		松島橋～大渉橋	府	7	2017	
遊歩道その他・賑わい施設		大阪ふれあいの水辺(砂浜ゾーン)	桜宮橋～源八橋	府	12	2012
船着場	防災船着場	大阪ドーム岩崎港	岩崎橋～岩松橋	府	20	2004
		大阪ドーム千代崎港	千代崎橋～岩松橋	府	20	2004
		八軒家浜港	天神橋～天満橋	府	16	2008
		福島港(ほたるまち)	玉江橋～田蓑橋	府	16	2008
		大阪国際会議場前港	堂島大橋～玉江橋	府	14	2010
	公共船着場	ローズポート	難波橋～天神橋	府	14	2010
		中央卸売市場前港	船津橋下流	府	14	2010
		本町橋船着場	本町橋北側	市	9	2015
		若松浜港(裁判所前)	水晶橋～銚流橋	府	13	2011
		若松ノ浜港	銚流橋～難波橋	府	11	2013
ライトアップ	護岸	南天満公園 水際照明	天神橋～天満橋	府	14	2010
		国際会議場前護岸	堂島大橋～玉江橋	府	13	2011
		ふれあいの岸辺	難波橋～天神橋	府	12	2012
		ほたるまち前護岸	玉江橋～田蓑橋	府	12	2012
		日本銀行北側護岸	中之島GB～大江橋	府	12	2012
		ウシオ1工区	田蓑橋～渡辺橋	府	7	2017
		ウシオ2工区	渡辺橋～中之島GB	府	7	2017
	船着場	中央公会堂北側護岸(ウシオ3工区)	水晶橋～銚流橋	府	7	2017
		ローズポート	難波橋～天神橋	府	14	2010
		中央卸売市場前港	船津橋下流	府	14	2010
		八軒家浜港	天神橋～天満橋	府	14	2010
		福島港(ほたるまち)	玉江橋～田蓑橋	府	14	2010
		大阪国際会議場前港	堂島大橋～玉江橋	府	13	2011
		遊歩道照明	尻無川分岐～千代崎橋	府	15	2009
		その他	ウォールペインティング	尻無川分岐～千代崎橋	府	13
堂島大橋下流左岸 樹木	上船津橋～堂島大橋		府	13	2011	

5. 水辺の親水空間整備状況

- 2001年の都市再生プロジェクト採択以降、水の回廊での親水空間整備が進んできた。中之島から大川にかけて、川を眺めながら歩くことができる水辺が連続している一方、東横堀川・木津川・道頓堀川西部はほとんど水辺に近づくことができない。
- 東横堀川の水辺の利活用や、東横堀川らしい賑わいのあり方についてのアンケート結果からも、多様な活動が展開される親水空間、連続して水辺を歩くことができる歩行空間が求められており、開かれた水辺が期待されている。



親水性がある水辺(八軒家浜)



親水性のない水辺(東横堀川)

東横堀川のこれからの水辺のあり方についてのアンケート調査



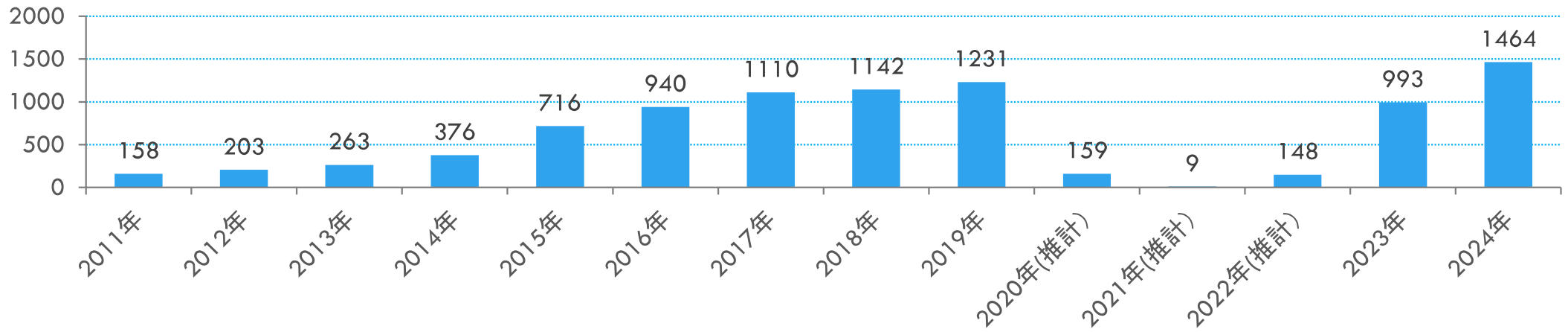
図一 調査対象河岸の親水性評価と整備箇所の名称
 出典：大阪市都心部の河川における親水性の評価とその整備手法の変遷に関する研究
 (ランドスケープ研究80、2017、667頁)

出典：2021年度東横堀川における水都大阪の新たなシンボル空間創出調査研究業務報告書

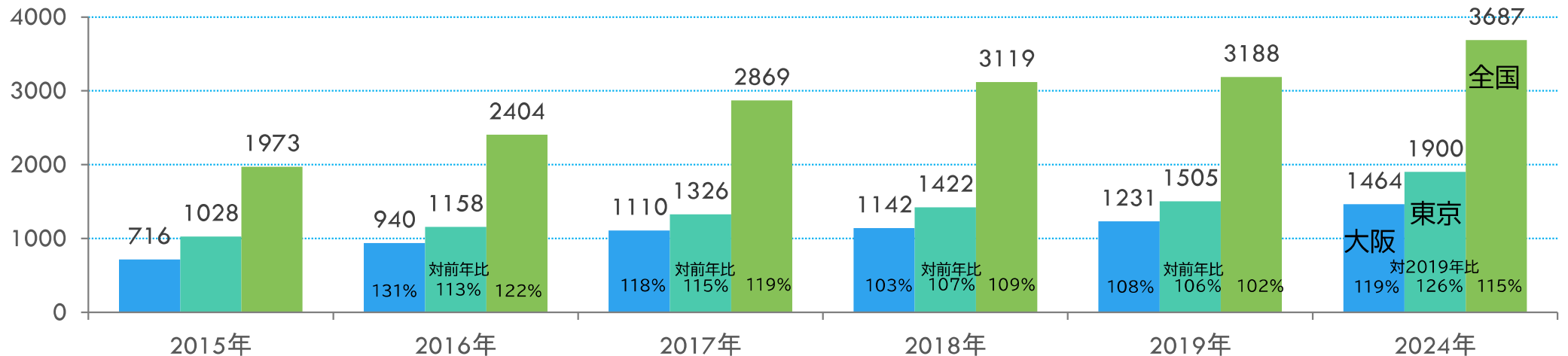
6. 近年のインバウンドの推移

- 新型コロナウイルス感染症拡大や国際情勢の影響により、2020年～2022年の来阪者数は激減したが、2023年より回復を見せ、2024年には1,464万人と過去最高を記録した。
- 同時期に日本を訪れた外国人が3,687万人であることから、訪日客の2.5人に1人は大阪を訪れている状況。
- 2011年からの13年間で来阪外客数は9.2倍となっている。

■ 来阪外客数の推移(単位:万人)



■ 来阪外客数の推移(全国、東京との比較)(単位:万人) ※2020年~2023年は未計測



出典:大阪観光局(2020年6月1日,7月31日) ※ JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに推計

7. 来阪インバウンドの訪れる場所

- 来阪旅行者の訪れた場所については、1位に「道頓堀(心斎橋・難波・アメリカ村)」、3位に「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」と水辺に近い観光地が上位となっている。
- 来阪旅行者が大阪と大阪以外で滞在中に何を楽しんだかについては、「街歩き」が3位となり大阪のまち全体を楽しんでいることがわかる一方で、「クルージング(海、河川など)」は20位で、大阪以外で楽しんだ割合の方がわずかに高い結果となった。

■大阪で訪れた場所

順位	訪問先	割合
1	道頓堀 (心斎橋・難波・アメリカ村)	71.0%
2	大阪城	57.8%
3	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	41.5%
4	日本橋	38.1%
5	通天閣 (新世界)	24.5%
6	黒門市場	22.4%
7	梅田スカイビル空中庭園展望台	21.7%
8	海遊館	13.0%
9	天王寺動物園	8.9%
10	勝尾寺	8.2%

■大阪と大阪以外で滞在中に楽しんだこと

順位	項目	大阪で楽しんだこと	大阪以外で楽しんだこと (大阪のみ訪問者を除外)	順位	割合	割合	傾向		
1	ショッピング	82.6%	66.3%	↑	20	クルージング (海、河川など)	7.2%	9.2%	↓
2	B級グルメ、ストリートフード	80.2%	64.3%	↑	18	温泉に入浴	13.1%	23.9%	↓
3	街歩き	76.1%	66.6%	↑	19	自然体験ツアー・農山漁村体験	11.5%	20.6%	↓
4	自然・景観地観光	56.7%	64.6%	↓	21	音楽・舞台鑑賞	6.7%	7.4%	↓
5	寺社仏閣	40.5%	53.0%	↓	22	和菓子体験	5.9%	8.6%	↓
6	日本の酒を飲むこと	34.9%	31.2%	↑	23	着付け	4.6%	11.0%	↓
7	歴史的な建造物 (寺社仏閣以外)	29.5%	34.5%	↓	24	その他	4.2%	6.2%	↓
8	テーマパーク	28.9%	15.8%	↑	25	スポーツ	3.6%	6.2%	↓
9	日本の日常生活体験	27.2%	28.2%	↓	26	治療・検診・美容・エステ	3.0%	3.9%	↓
10	日本のポップカルチャーを楽しむ (ファッション・アニメなど)	26.5%	25.4%	↑	27	茶道	3.0%	8.0%	↓
11	家庭料理	23.6%	21.9%	↑	28	伝統工芸・クラフト・モノづくり	2.3%	4.9%	↓
12	美術館・博物館	19.1%	27.1%	↓	29	スポーツ観戦 (相撲・サッカー・野球など)	2.2%	4.3%	↓
13	高級グルメ(ミシュラン)、 懐石料理	18.7%	20.7%	↓	30	能、歌舞伎、文楽	2.0%	4.1%	↓
14	旅館を楽しむこと	16.8%	23.9%	↓	31	縁起物・忍者・侍体験	1.5%	3.9%	↓
15	四季の体感(花見・紅葉・雪等)	15.6%	23.6%	↓	32	習字、書道	1.2%	3.0%	↓
16	映画・アニメ縁の地を訪問	15.3%	18.5%	↓	33	和太鼓、お琴、三味線	0.9%	2.4%	↓
17	動植物園・水族館	14.2%	10.8%	↑	34	生け花・華道	0.8%	2.0%	↓
					35	武術(空手、柔道)	0.6%	1.6%	↓
					36	舞踊	0.5%	1.4%	↓
					37	座禅	0.5%	1.5%	↓

大阪で楽しんだことの割合が大阪以外で楽しんだことに比べて高いか低いかわかる

↑ …高い
↓ …低い

【大阪で楽しんだこと N = 3,914】
※大阪訪問者数

【大阪以外で楽しんだこと N = 3,675】
※大阪にしか行かなかった人を除外した数

出典:大阪観光局
訪日外国人旅行社の動向把握にむけた関西空港出口調査 2024年度

8. 舟運利用者数の推移

- 2018年度までは、主にインバウンドの利用者の増加に伴い、右肩上がりに増加。(120万人/年に到達)
- 2019年度から2020年にかけて、新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の影響により利用者は減少。
- 2021年度から徐々に利用者数が増加し、2023年度にはコロナ以前のピーク時を超えた。(130万人/年に到達)

年 度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
利用者数(人)	498,448	598,534	780,043	864,841	1,198,570	1,226,954	1,014,457	65,981	93,652	548,804	1,334,526	1,364,991
対前年増加率	-	1.20倍	1.30倍	1.11倍	1.39倍	1.02倍	0.83倍	0.065倍	1.42倍	5.86倍	2.43倍	1.02倍
うちインバウンド【推計】	101,464	120,069	254,000	397,586	709,205	625,955	516,789	-	-	-	-	-
インバウンドの占める割合	20.4%	20.1%	32.6%	46.0%	59.2%	51.0%	50.9%	-	-	-	-	-

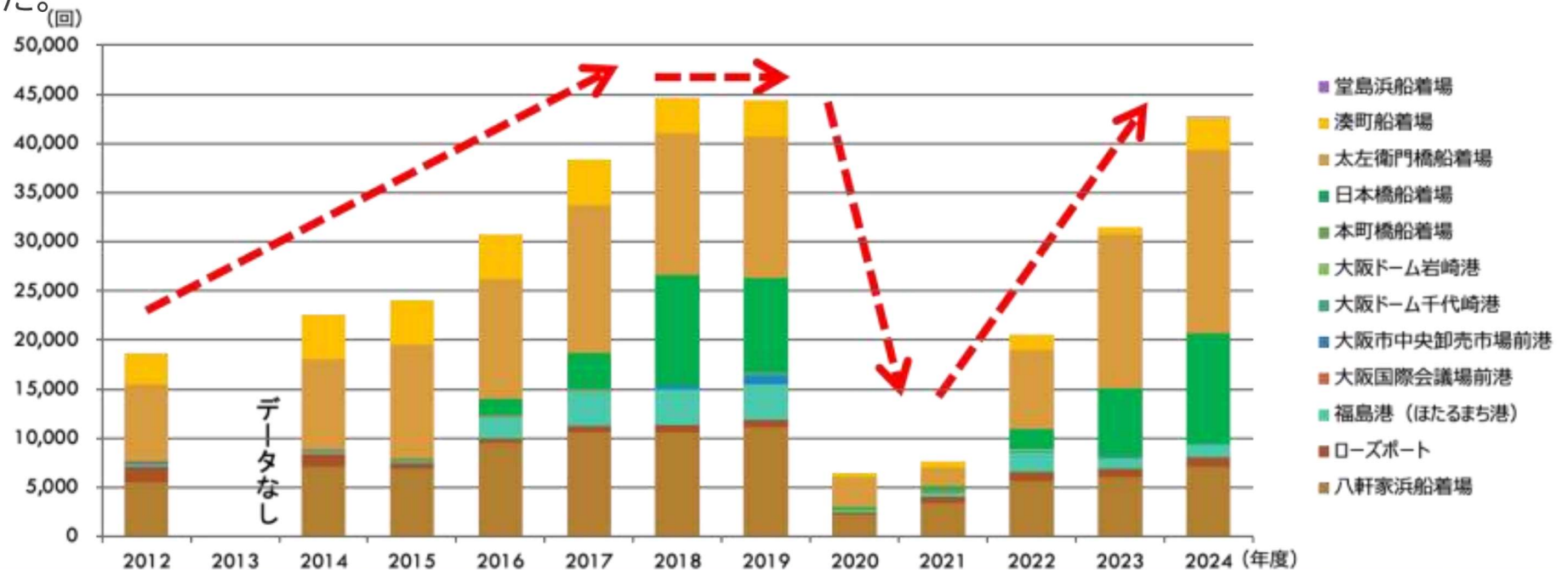
※2020年度以降は国内利用者とインバウンドの総数



*水都大阪コンソーシアム調べ

9. 船着場利用実績の推移

- 2019年度までは緩やかな上昇傾向にあったが、2020年度(1月～6月)に新型コロナで各舟運事業社が運休した影響により、発着回数も激減。
- 2021年度から2023年度にかけて前年比1.5倍以上で発着回数が増加し、2024年度には2019年度実績並に回復した。



発着回数	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
堂島浜船着場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
湊町船着場	3,228	-	4,616	4,494	4,469	4,616	3,631	3,682	443	682	1,598	753	3,303
太左衛門橋船着場	7,781	-	9,190	11,580	12,292	15,046	14,437	14,473	2,977	1,894	8,048	15,758	18,618
日本橋船着場	10	-	8	32	1,576	3,649	11,527	9,555	292	222	2,000	6,863	11,230
本町橋船着場	-	-	-	202	76	42	38	29	20	193	87	58	60
大阪ドーム岩崎港	39	-	15	33	7	8	7	5	29	15	160	49	32
大阪ドーム千代崎港	26	-	17	94	16	38	40	348	19	32	42	28	37
大阪市中央卸売市場前港	144	-	86	22	5	36	347	838	1	26	25	21	37
大阪国際会議場前港	136	-	57	72	100	76	74	51	30	102	95	50	26
福島港 (ほたるまち港)	165	-	299	98	2,168	3,599	3,623	3,550	179	466	1,922	1,001	1,259
ローズポート	1,624	-	1,198	461	411	624	769	759	214	665	971	921	978
八軒家浜船着場	5,511	-	7,138	6,926	9,584	10,609	10,805	11,132	2,235	3,344	5,642	6,015	7,051
計	18,664	-	22,624	24,014	30,704	38,343	45,298	44,422	6,439	7,641	20,590	31,517	42,635

*水都大阪コンソーシアム調べ

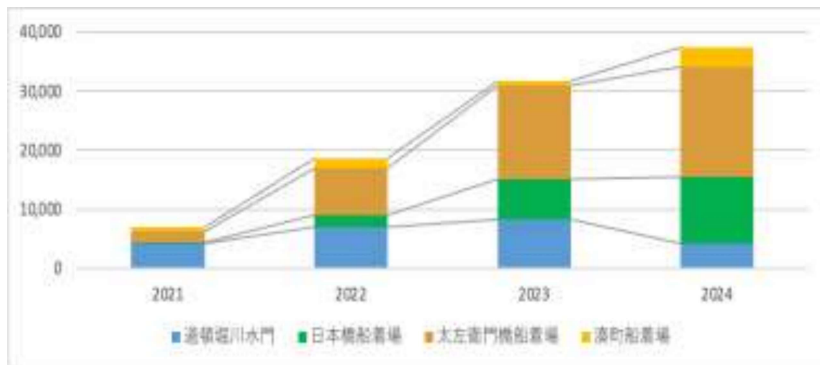
11. 舟運の安全の状況と対応

■事故やインシデント等の発生現状

- 事業船(貨物船など)と観光船等が共存している中、多様な水面利用者が増加し、高速で航行するなど一部で不適正な水面利用も増えていることから多くのインシデントが発生していると考えられる。
- 今後も、舟運活性化等により船舶が増加することで、事故やインシデントも増加する恐れがある。
- 報告があった主なインシデント等は以下のとおり。
 - 船舶同士の接触やニアミス
 - 係留船への接触
 - 高速走行船による接触等の懸念
 - 船着場以外からの乗降
 - 不適切な係留
 - 河川への飛び込み
 - 高速航行での引き波による他船舶の破損、転覆等

■道頓堀での舟運航行数(水門通過船数)

- 道頓堀川水門においては2021年から2023年まで前年比1.5倍程度で船舶航行数が増加。2024年は水門工事に伴う閉鎖期間があり一時的に減少するものの、船着場の利用は2021年から毎年増加した。



■道頓堀の航行ルール確立

- 2007年に河川水上交通の安全と振興に関する協議会において策定された「河川水上航行ルール(一級河川淀川水系の指定水域における船舶等の通航に関する指導指針)」について、近年の水面利用者の増加等をうけて道頓堀川エリアでの改正が2025年より施行的に実施されている。
- 改正内容
 - 右側通航の徹底
 - 「行き会い・追い越し禁止区域」の変更
 - 徐行区域の設定
 - 行き会い時及び船着場付近の通行方法の明文化



出典:水上航行ルール(R7年大阪府)

12. 万博を契機とした主な取組み

- 2025年の「大阪・関西万博」を契機に、船着場や大堰閘門の開設などのハード整備が進むとともに、OSAKA リバーファンタジーや橋梁部のライトアップ、万博航路の促進などにより、新たな水辺の魅力が創出された。

	主な取組み
舟運(万博航路)	<ul style="list-style-type: none"> ・初の海上開催となる2025年大阪・関西万博会場となる夢洲には栈橋が設置され、船での往来が可能になった ・大阪市内中心部から夢洲までの航路を新エネルギー水素燃料電池船「まほろば」やミヤクミヤクラッピングの船が行き交った ・2025年3月淀川大堰閘門「淀川ゲートウェイ」開通、十三船着場供用開始 ・2025年4月海川接続の拠点として中之島GATEサウスピア開業 ・SOCでは、2023～24年に万博航路についての社会実験を実施。2025年は万博航路の普及促進を支援
万博時の水辺のにぎわい(夜間景観)	<ul style="list-style-type: none"> ・安治川水門・天保山大橋、阪神高速環状線橋脚のライトアップ ・2025年3月から大阪府市による万博重点事業「OSAKAリバーファンタジー」を開催(26年2月末まで実施予定)
公民連携	<ul style="list-style-type: none"> ・経済界・行政が一体となって開催する「まちごと万博」へ参画



中之島GATEサウスピア



淀川大堰閘門 淀川ゲートウェイ



OSAKAリバーファンタジー(八軒家浜)



OSAKAリバーファンタジー(東横堀川)



万博航路チラシ

13. 世界の水の都の再生①

	大阪	ロンドン	パリ	バンコク	蘇州
国	日本	イギリス（首都）	フランス（首都）	タイ（首都）	中国
愛称	Aqua Metropolis Osaka	水都に特化したものはない	水都に特化したものはない	Venice of the East	Venice of the East
人口(2023年)	約276万人	約895万人	約209万人(郊外含まず)	約547万人	約512万人
面積	約225km ²	約1,572km ²	約105km ²	約1,568km ²	約8,488km ²
主な施設	・大学:13校	・大学:15校以上 ・世界遺産:4件	・大学:15校以上 ・世界遺産:1件	・大学:15校以上	・大学:15校以上 ・世界遺産:1件
舟運	受付窓口にて予約制の定期観光船やチャーター船が運行している。	・オンライン予約可能の定期航路が多数。 ・メトロ・トラム・バスなどと一体的に運営されているロンドンリバーバスがある。	・オンライン予約可能の定期航路や、24時間乗り放題の船もある。 ・2026年にはパリと郊外を結ぶ民間主導の水上公共交通網が開通予定。船着場とメトロは徒歩5分以内	・観光客も市民も使えるチャオプラーエクスプレスボート社がある。 ・2021年からEV船が就航し、通勤・通学で使用されている。	・歴史的なエリアでは手漕ぎ船を中心とした観光船が多く、ベイエリアではナイトクルーズが人気。
再生のポイント	・戦後、水質は悪化・暮らしと水辺が分断されるも、1970年代末には水質が改善、2000年代は水辺の公共空間を中心に再生。2009年以降、公民連携による水辺の賑わいづくりが継続中。	・1980年代にロンドンドックランズ開発公社設立により荒廃地化したテムズ川沿いの港湾地区(ドックランズ)を再生。 ・住宅・オフィス・公共スペースに転換され、イギリス第2の金融街や観光地としても賑わっている。	・2016年にはセーヌ川兩岸を車道から歩行者空間化し、市民が水辺を親しめる空間に。毎年夏にはパリビーチとして砂浜が出現。 ・水質浄化や緑化にも注力し、環境配慮型の再開発として進行中。	・街を縦横に流れるチャオプラー運河とその支流によって水運が発達。現在でも水上バスや水上マーケットなどが市民にも観光客にも人気。 ・2020年にはスラム街だったオーナン運河沿いをウォールアートと飲食、音楽の街へと再生した。	・約2500年の歴史を持つ「東洋のベニス」と呼ばれる中国で最も河と橋が多い街。長江と湖によって街中に網目状に運河が伸び、水上交通が盛んだった。 ・歴史的なエリアがある一方、工業園区では開発が進み、モダンなベイエリアとなっている。
					
		出典:ロンドン交通局	出典:パリ観光局	出典:タイ国政府観光庁	出典:蘇州市公式観光サイト

13. 世界の水の都の再生②

	サンアントニオ	アムステルダム	オスロ	ビルバオ
国	アメリカ	オランダ（首都）	ノルウェー（首都）	スペイン
愛称	River City	City of Canals / Venice of the North	Oslofjord(オスロ フィヨルド)	水都に特化したものはない
人口 (2023年)	約149万人	約92万人	約72万人	約34万人
面積	約1,205km ²	約219km ²	約454km ²	約41km ²
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:15校以上 ・世界遺産:1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:2校 ・世界遺産:1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:2校 (他 単科大学複数) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:15校以上
舟運	<ul style="list-style-type: none"> ・リバーウォークでは1社がナレーション付きの観光船と1時間間隔のシャトルを運行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メトロ・トラム・バスなどと一体的に運営されているアムステルダム市営交通の船がある。 ・サップや貸出ボートなどミニマムな水上交通あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィヨルドをめぐる観光船や、中心地とすこし離れたエリアをつなぐ公共船あり。(美術館の入場や公共交通機関の乗車・乗船ができる観光パスでも利用可能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺のランドマークをめぐる観光線が就航。
再生のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・2000年代から市民参加型の水辺再生プロジェクトがスタートし、行政と市民をつなぐ地方政府機関リバー・オーソリティが活躍。 ・市民の誇りになるだけでなく年間観光客数も増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの中心部に縦横に運河が流れ、ハウスボートや水上住宅、水辺でのイベントなど暮らしと水辺が密接。 ・東部や北部では造船所跡地等を再開発してクリエイティブや循環型社会の拠点となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・湾岸エリアと市街地が分断されている課題解決のため2000年代から進められたプロジェクトにより再生。 ・大規模なプロジェクトのなかに、生活のための空間の視点が織り込まれ、パブリックライフの実現が目指されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃・汚染されたネルビオン川を中心に、アートと環境をテーマに美術館誘致や水質改善を行い、工業都市から文化都市へ再生した。 ・ビルバオ効果と呼ばれるように都市再生の成功例として知られる。
				
	出典:サンアントニオリバーウォークIG		出典:Den Norske Opera & Ballett photo:Erik Berg	